

明けましておめでとうございます

皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



2016(平成28)年元旦

「フォーラム 学生と図書館」を開催しました

本学図書館は昨年(2015)の11月1日(日)の午後2時から、第2閲覧室において通算17回目となる学園祭協賛行事「フォーラム学生と図書館」を開催しました。



今回のテーマは「書物きょうじと経師きょうじ」で、和本と呼ばれる和紙を用いた本の製作から保存、修復の伝統的な技法について、経師という特殊な資格を有されている大入達男おおいりたつお氏に講演していただき、その後本学の留学生と学部生の5名から質問やコメントがありました。

ご来場いただいた市民の方々や教職員、学生の皆さんに感謝を申し上げます。(20~21頁に関連記事)

稀観書展示会「ちりめん本の先駆者 長谷川武次郎に協力した外国人たち」を開催しました

本学図書館は昨年(2015)の11月6日(金)から11月13日(金)までの8日間に渡り、国際交流会館6階にあるユニバーシティ・ギャラリーで稀観書

展示会「ちりめん本の先駆者 長谷川武次郎に協力した外国人たち」を開催しました。

この展示会では、「Japanese Fairy Tale Series」(『日本昔噺シリーズ』の英語版)が展示され、長谷川武次郎に協力した6人の翻訳者が紹介されました。翻訳者の多くは宣教師や大学で英語教員を務めた人たちが日本文化に精通していましたが、中でも日本語やアイヌ語の研究者として有名な言語学者バジル・ホール・チェンバレンやヘボン式ローマ字を考案したジェームズ・ヘボン、そして日本研究の著作の多いラフカディオ・ハーンは記憶に留められるべき人たちです。この英語版のちりめん本の他に、ドイツ語版、フランス語版、スペイン語版、ポルトガル語版のちりめん本も併せて展示されました。



ちりめん本は単なる外国人向けのお土産ではなく、お伽噺を通して日本人の精神性や日本文化研究の手掛かりを与え、浮世絵の伝統を受け継いだ絵師による絵画や和紙を使った和綴じの本の製本技術の素晴らしさを世界に紹介するものとなりました。学内関係者ばかりでなく、多くの市民の方々に来場していただいたこと、ま